

発掘現場から⑪

「門前上屋敷遺跡の調査成果」

先月号でも紹介しましたが、4月から門前上屋敷遺跡で発掘調査を行っています。門前上屋敷遺跡の調査は今年で3年目となり、いよいよ最後となります。調査は夏ごろまで行い、その後、調査の成果を報告書としてまとめる作業をしていきます。



平面の形が長方形の竪穴住居

そして、来年の今頃には報告書としてお近くの図書館で閲覧できるようになるかと思います。昨年度の調査成果については、鳥取市国府町にある鳥取県埋蔵文化財センターで展示しています。

期間は6月5日～来年の2月23日まで（土・日、祝祭日、年末年始12月29日～1月3日を除く平日）。時間は午前9時～午後5時までとなつていて

ます。平日にしか見ることができませんが、大山町の歴史を肌で感じてみてはいかがでしょうか。

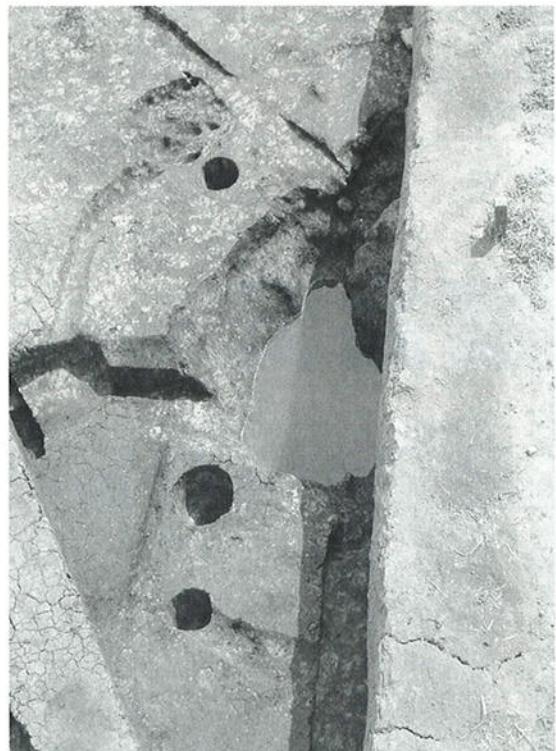
宣伝はさておき、今月の本題にもどつて門前上屋敷遺跡を紹介します。

現在までに弥生時代中期（約1900～2000年）

前）の竪穴住居跡、中世（約400～900年前）の建物跡や防御などを目的とした堀、田んぼや畠の耕作の跡などが見つかっています。

弥生時代の遺構は竪穴住居7棟、土坑4基などです。これららの遺構は出土した遺物から弥生時代中期のものと考えることができます。

中世の遺構などや現在行っている調査の成果についても順次お知らせします。



平面の形が円形の竪穴住居

鳥取県埋蔵文化財センター名和調査事務所

〒 689-3205 西伯郡大山町西坪字中松堀 179-5

電話 0859-54-2671